

2023年度 年次報告書



特定非営利活動法人
河北潟湖沼研究所

Kahokugata Lake Institute

河北潟湖沼研究所のビジョン

＜ 私たちが目指す河北潟の姿 ＞

流域全体が無農薬となり、ヤマトシジミ、ウナギなどが生息する河北潟が復活し、潟漁が営まれて食卓も豊かになります。

水草が増えて水も透明になり、清湖のきれいな水と自然が取り戻された流域にはいろいろな地場産業が発展しています。

「河北潟」は地域に活力を与え続けます。

河北潟湖沼研究所のミッション

- 1 潟の再汽水化と自然流下の復元
- 2 かつての潟の水質と生物多様性に近づけるための流域管理の視点からの農業を使わない新しい農業の確立
- 3 泳げる河北潟・食べられる河北潟のために内水面漁業の復活
- 4 地域産業において潟の自然環境が活かされるための河北潟ブランドの確立とエコツーリズムの展開
- 5 林業の活性化による流域全体の健全化
- 6 コミュニティによる流域管理の手法の確立

ビジョンの実現に向けて、課題を達成するための研究をおこない、成果を検証しながら方法を構築することをミッションとしています。また、ビジョンの実現のためには行政機関や地域住民、産業の役割が必須であることから、多くの関係者が連携し、役割を分担してビジョンが実現できるよう呼びかけや調整に取り組んでいます。

ご挨拶

アフターコロナそして震災の中での新たな展開

日頃より河北潟湖沼研究所の活動にご支援ご協力をいただき、まことにありがとうございます。

コロナ明けの1年目となる2023年は、津幡町吉倉に新しい拠点を構えて、河北潟流域全体を俯瞰した活動を展開するとともに、流域内外の交流を深めることを目指した1年でした。吉倉交流館と名付けた古民家を整備して、上流域の出先事務所として、また体験イベントの施設として、さらに宿泊施設として活用を始めました。

夏より運用を開始しましたが、早速夏休み期間に募集したインターンシップに応募した3名が滞在することになりました。そのうち一組はなんとドイツからご参加いただいた親子でした。その他、首都圏からの女子学生が加わり、私たちも初体験でどうなるかと思いましたが、皆さんすぐに仲良くなり、楽しく充実した研修をやり遂げることができました。

9月には、広島大学の大学院生がインターンシップに参加して、1週間ほど交流館に宿泊していきました。その後、その大学院生は私たちの専従スタッフとなりました。

吉倉の集落の皆様には、快く私たちの試みを認めていただき、何かと便宜を図っていただきました。過疎化が進む中で未耕作となっている田畑をお借りすることができ、そのうち1筆の水田で先行して稲作を始めることとなりました。2024年には最初の米の収穫ができる予定です。

当面は、研究所の関係者や活動参加者が気軽に泊まれる無料の宿泊施設として運用していきますが、将来的には流域のエコツアーを展開する拠点として、また本格的な宿泊施設としての運用を展望しています。加えて、1部屋を小さな地域博物館として運用していく計画です。

これまでの河北潟周辺での活動も引き続き実施しました。昨年までは多くの団体の行事が自粛されていたため、コロナ禍にもかかわらず継続し

ていた私たちのイベントにはたくさんの方が参加されていました。しかしコロナ明けとともに以前のレベルの参加者数に戻りました。それでも新たな参加者を含め、多くの方にご参加いただきました。

そのような中、1月1日の能登半島地震が起こり、河北潟と周辺地域でも大きな被害がありました。特に内灘砂丘の河北潟と接する裾部において、大規模な液状化と側方流動が起こり、多数の民家やその他の建物が損傷しました。河北潟干拓地の堤防が決壊し、湖水が干拓地に流入する事態が起こりました。日本海と河北潟を区切っている防潮堤も損壊し、あともう少しで海水が潟に流入するところでした。内灘側の湖岸堤防も一部損壊し、大野川の汽水が水田などに浸み出す事態も確認されました。

私たちは正月を返上して、被害実態の調査を始めました。その結果、内灘砂丘での被害の大きさと過去の地形改変との間に相関があり、過剰な砂丘砂の採掘が被害の拡大を招いた可能性が大きいことが指摘されました。干拓堤防の損壊は、内灘砂丘の被害拡大にもつながった可能性が示唆される砂丘の掘削砂により築堤されたことや、軟弱地盤における経年的な堤防沈下に対する対策が遅れていたことが関係していることが指摘されました。

河北潟と周辺域を今後どのように復興していったら良いのかを考え、提言することが私たちの新しい課題となっています。取り組みの第一段として、3月31日にシンポジウムを開催しました。オンラインの参加者を含め100名の方にご参加いただきました。

河北潟湖沼研究所は、新しい課題にも果敢に取り組んでいく所存です。皆様のさらなるご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

河北潟湖沼研究所 理事長 高橋 久

河北潟を再生したい！

ビジョン実現にむけた河北潟及び大野川での調査をすすめるほか、能登半島地震による被害状況の調査をすすめています。また河北潟の課題や展望を話し合い、学ぶ場を作っています。

課題

- 河北潟の水がなかなかきれいにならない
- 流域住民と河北潟との接点が少ない

取り組み

- 河北潟や大野川での調査の継続実施
- 流域連携をテーマにしたシンポジウムや河北潟セミナーの開催

2023年度の成果

- 「河北潟総合研究第26巻」発刊、河北潟や大野川での調査結果公表
- シンポジウム、河北潟セミナーに116名参加
- 河北潟研究奨励助成実施



調査の継続実施

河北潟では、富栄養化や透明度の低下が問題となっていますが、私たちは再び海水の入る湖に戻す再汽水化を有効な解決方法のひとつであると考え、前年度までに引き続き、河北潟の再汽水化を視野に入れた調査研究をすすめています。また、能登半島地震発災後は、河北潟干拓地の堤防、河北潟の湖岸植生などの調査を進めています。その成果については3月31日に実施した河北潟流域シンポジウム等で発表しています。



調査・研究に参加しよう

現地調査や研究会議への参加

河北潟湖沼研究所は、研究者はもちろん、市民、企業、農家、学生、どのような方でも「研究したい」という方の参加を歓迎します。ご興味のある方はお問い合わせください。

河北潟研究奨励助成への応募

毎年12月に募集を行っています。助成対象となる研究課題は河北潟の自然再生と環境保全、干拓地農業、地域資源の循環的利用等です。当団体ホームページやメルマガ等でご案内しています。



河北潟流域シンポジウム実施

河北潟流域の震災復興と自然再生 ～多様な地域主体の連携の重要性～

会場：石川県地場産業振興センター
本館1階第7研修室+オンライン

2024年3月31日、第7回目の「河北潟流域シンポジウム」を開催しました。令和6年1月1日の能登半島地震では、河北潟流域でも内灘砂丘沿いの集落や、河北潟干拓地の堤防などが大きな被害を受け、当地域が災害に対して脆弱であることがあらわとなりました。今回のシンポジウムではテーマを「自然災害と自然再生」そしてそこにかかわる「関係者の連携」と設定し、専門家による講演、ディスカッションにより、復興事業における自然環境の保全の取り組みにおける流域の多様な関係者の合意と連携について考えました。



*河北潟流域シンポジウムの実施にあたり、ドコモ市民活動団体助成事業による助成金を活用しています。

< プログラム >

主催者挨拶・趣旨説明

永坂正夫(河北潟湖沼研究所所長・金沢星稜大学教授)

基調講演

『農の営みをとおして実現する防災・減災と生物多様性の維持・向上』 鎌田磨人氏(徳島大学大学院社会産業理工学研究部・教授)

事例報告

『東日本大震災津波跡地における復旧事業とその教訓』 黒沢高秀氏(福島大学共生システム理工学類・教授)

『よみがえれ! 生命の宝庫・蒲生干潟―再生を始めた干潟と復興事業の人的かく乱―』 熊谷佳二氏(蒲生を守る会)

『被災後の自然と文化を、どのようにして未来につなげたらよいのか?―福島県北東部の震災・原発事故後の問題点―』 稲葉修氏(飯館村教育委員会・教諭)

河北潟から報告

『能登半島地震により示された河北潟流域の災害に対する脆弱性』 高橋久(河北潟湖沼研究所理事長)

パネルディスカッション

『河北潟流域の災害復興をどのように進めたらよいのか』 コーディネータ 鎌田磨人氏

河北潟セミナー実施

2023年9月9日、南葉鍊志郎氏(広島大学大学院統合生命科学研究科)を講師にお招きし、「広島での地域おこし活動と広島大学博物館での企画活動」をテーマに、河北潟セミナーを実施しました。



河北潟研究奨励助成実施・河北潟総合研究第26巻発行

河北潟に関する基礎的学術資料の蓄積をはかり、地域の持続的な社会のあり方を検討すると共に、地域の研究ネットワークを広げる取り組みとして、専門的知識を持つ研究者や学生、持続的な社会の実現を目指し活動をしている方々が取り組む研究を奨励する助成を行っています。2023年度は活動に賛同いただいた方からの寄付、事業活動収益を原資として実施しました。本助成では助成期間終了後、成果として当団体の機関誌「河北潟総合研究」に原稿を投稿いただいています。河北潟総合研究は研究成果普及のため、会員や主な研究機関に配布するほか、ホームページでも公開し、冊子は販売も行っています。

2023年度 河北潟研究奨励助成 決定

申請者 高橋雅雄さん(所属:岩手県立博物館)
助成金額 100,000円
研究課題 湿性草原棲鳥類の河北潟周辺での越冬状況の解明

機関誌・河北潟総合研究

河北潟総合研究はホームページで公開しています。また1部1000円で頒布しており、バックナンバーも購入いただけます。



農地と生きものをまもりたい!

課題

- 河北潟地域の田んぼの生きものが減少
- 流域の農地で使われる肥料や農薬が河北潟の水質汚濁の要因となっている

取り組み

- 必要のない農薬を使わない農地を増やし、そこでできたお米を販売
- 内灘砂丘地の畑で農薬、化学肥料を使わない野菜作りとその販売

2023年度の成果

- 生きもの元気米圃場面積 1,638㎡ 増加
- 無農薬野菜栽培の継続



生きもの元気米

河北潟周辺には田んぼがたくさんありますが、昔と比べ生きものの種類も数も減っています。私たちはその重要な原因として①農薬の空中散布+浸透性殺虫剤(ネオニコチン)、②畦の除草剤散布があると考えています。そこでこの二つを実施しないことを条件に栽培する「生きもの元気米」の取組を2014年から継続しています。栽培は契約農家や当研究所が行っています。田んぼ一枚ごとに生きもの調査を実施し、それぞれ生きもの元気米認証を行い販売しています。2023年度は、栽培農家、外部の専門家、一般の方も参加した参加型の生きもの調査を行いました。調査結果は米袋やホームページ等で紹介しています。田んぼの生物多様性を守り、生産者、消費者の意識を高められるよう、様々に活動しています。

*調査活動や魚道の設置などに、LUSH Re:Fund Local助成を活用しています。

圃場面積

2023年
59,236㎡

* 稲作田12枚+蓮田(レンコン)6枚

生産量

2023年
6.5トン



すずめ野菜

河北潟のとなりにある内灘砂丘地の畑で、農薬や化学肥料を使わずに野菜を栽培する取組です。砂丘地で農薬や肥料の量を減らすことは、砂丘から流れ込む水をよくし、河北潟の水質改善にもつながります。2023年度はタマネギが豊作となり、またこれまでよく虫害を受けていたハクサイの栽培に成功しました。試行錯誤しながら農薬不使用を継続しています。



持続可能な農業をまもりたい!

課題

- 農家の高齢化や大規模農業化で、農地に関わる人が減り、農地の細やかな手入れが難しくなっている。

取り組み

- 農地と市民をつなぐ農業不使用の米作り
- 農家、企業、市民、NPO協働で水路保全活動
- 金沢市中心部と河北潟の農地をつなぐマルシェの実施

2023年度の成果

- 七豊米田んぼ作業にのべ74人参加
- 外来植物除去活動にのべ49人参加
- ゆうぐれ金曜マルシェ31回実施



七豊米

2012年より農業・化学肥料を使わずに栽培している田んぼの取組です。田植えや観察会等体験イベントのほか、苗代作り、除草等様々な農作業をボランティアの皆様と共に行っています。田んぼの環境や生きものを守り、昔ながらの米作りの技を伝えるため、おいしいお米を届けるため、活動しています。2023年度は除草作業などがうまくいき、ここ10年では、最多の収穫量となりました。

外来植物除去活動

実施：河北潟地区外来植物対応方策検討会、河北潟の水辺を守り隊、グリーン・アース農地・水・環境保全組織、協力：河北潟湖沼研究所

河北潟周辺の農地の水路では、外来植物チクゴスズメノヒエにより水の流れがふさがれる、在来植物の生息場所が奪われるなどの問題があります。この除去活動を他団体と協力して実施しています。当団体は実施場所の選定や記録、当日の運営等を行っています。2023年度は悪天候の中、チクゴスズメノヒエを除去活動を行いました。またヨシ群落に入るセイタカアワダチソウの除去活動、除去した植物を利用した草木染め体験なども行いました。



金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ

金沢駅西イベント広場で、すすめ野菜や生きもの元気米等河北潟周辺で栽培した農産物を、金沢駅周辺住民に届ける場です。2023年度は、実施運営にボランティアの方が加わり、4月から11月の毎週金曜、にぎやかに開催することができました。

募集中!

- 生きもの元気米を栽培いただける農家
- 農作業、生きもの調査、マルシェ開催にご協力いただけるボランティア



河北潟流域全体の保全を進めたい!

課題

- 流域単位の取り組みが遅れている、流域連携の仕組みがない

取り組み

- 環境省による専門家会議の現地視察と意見交換会の実施
- 吉倉交流館の運用開始
- 流域の保全を担う人材育成のため「ジュニア河北潟流域レンジャー」プログラム実施
- 河北潟流域ゴミ拾い、ゴミ調査、ゴミをテーマにしたシンポジウムの実施
- 流域の他団体と協力した活動の実施

2023年度の成果

- 2回の準備会を実施し、計45人参加、河北潟流域自然再生協議会準備会の部会活動を開始
- ジュニア河北潟流域レンジャー3人認定
- 河北潟流域のゴミ拾い、ゴミ拾いをテーマにしたシンポジウム等に101人参加
- 河北潟クリーン作戦に858人、河北潟自然再生まつりに250人参加



河北潟流域まるごと体験プログラム(2023年7月29日)。



河北潟流域まるごと体験プログラム(2023年7月23日)。



河北潟クリーン作戦(2023年4月16日)。

河北潟流域自然再生協議会の設立に向けた取り組み



河北潟流域で連携して環境保全活動を行う仕組みとして、「河北潟流域自然再生協議会」の設立にむけた取組を、地域他団体の皆様と協力してすすめています。当団体は事務局として様々な調整や会議の運営等を行っています。2023年度は環境省による専門家会議の現地視察と意見交換会を行いました。県議会議員の方などにも新たにご協力をいただきながら、準備会として活動を継続しています。

吉倉交流館

2023年8月より、河北潟の上流域にある津幡町吉倉で、古民家を「吉倉交流館」として活用を始めました。当団体インターンシップ、ボランティアや調査活動等に参加される方の活動拠点として運用し、インターンシップ参加者等は宿泊も可能となりました。河北潟とつながる川の上・中流域との交流をすすめ、流域の課題解決に向けた活動拠点となるよう、整備をすすめています。



ジュニア河北潟流域レンジャー

河北潟を大好きな子が増え、生態系と自然環境の問題に気づくことのできる感性豊かな人材が育まれることを願い、2022年度より開始した認定制度です。「河北潟流域まるごと体験」と題し連続プログラムを実施し、河北潟で展開するさまざまな活動への参加を促しています。1プログラム参加ごとに単位取得ができ、8単位の取得で認定されます。2023年度は新たに3名が認定されました。

＊ジュニア河北潟レンジャープログラムの実施にあたり、安藤スポーツ・食文化振興財団の支援金を活用しています。



河北潟流域ゴミ拾い、ゴミ調査

河北潟のゴミの状況を調べるとともに、ゴミ拾いの実践、啓発活動等を行っています。2023年度は流域各地でのゴミ拾い、ゴミ調査のほか、流域のゴミの現状を視察するバスツアー等を実施しました。8月には河北潟カヌークラブのご協力のもと、カヌー体験を兼ねたカヌーでのゴミ拾い活動も実施しました。ゴミ拾いと自然体験や自然観察を組み合わせることで、新たな活動参加者が得られています。2月24日には「話し合おう ゴミ拾いの意味」と題したシンポジウムを開催し、53名の方にご参加いただきました。



＊河北潟流域ゴミ拾い、ゴミ調査、シンポジウム等の実施にあたり、エフビコ環境基金の助成金を活用しています。

他の団体と協力した活動

河北潟クリーン作戦

主催：河北潟クリーン作戦実行委員会
事務局：河北潟湖沼研究所

毎年4月に行われる河北潟の一斉清掃活動です。当団体は事務局として実行委員会の開催、関係機関との調整や連絡、広報活動、当日の実施運営、記録、報告等を行っています。2023年は4月16日に実施し、858名の方に参加いただき、3.1トンのゴミが回収されました。

河北潟自然再生まつり

主催：河北潟自然再生まつり実行委員会
共催：河北潟湖沼研究所

河北潟地域で環境保全活動を行っている団体が集まり、活動PRと共に様々なプログラムを実施します。2023年は10月20日に実施し、250名に参加いただきました。当団体は実行委員会の開催、共催団体との調整や広報等を行い、当日は複数のプログラムを実施しました。

ご支援、ご寄付ありがとうございます

河北潟湖沼研究所の活動は、たくさんの方々のご支援、ご寄付、ご協力で成り立っています。

2023年度は、生きもの元気米の取り組みへの応援として、お米の購入によるご支援もいただきました。活動の実施や運営にあたり、たくさんのボランティアの皆様にご協力をいただきました。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

■ ご寄付をいただきました

- 個人及び団体のみなさまより 計229,707円

■ 助成金を活用させていただきました

- LUSH Re:Fund Local 2,920,000円
活動名：生物多様性を保全したリジネレイティブな地域をつくるプロジェクト ステップ1. 農業に頼らない新しい農業の推進（2023年度分として112万円を使わせていただきました）
- エフピコ環境基金 1,000,000円
活動名：ゴミゼロ河北潟の実現にむけたゴミ拾い、調査、啓発活動
- ドコモ市民活動団体助成 700,000円
活動名：河北潟流域における地域協議会の仕組みを活かした連携による環境保全活動の推進

■ プログラム支援をいただきました

- 安藤スポーツ・食文化振興財団
第22回トム・ソーヤースクール企画コンテストに応募し、実施支援金として100,000円をいただきました。

■ 生きもの元気米購入支援をいただきました

- 公益財団法人日本釣振興会 その他の企業様
ネオニコチノイド系農薬を使わない「生きもの元気米」の取組への応援として、また能登半島地震被害への応援として、日本釣振興会様の呼びかけにより、株式会社タカミヤ様、株式会社ツネミ様、株式会社つり人社様、また個人の皆様から、約80万円のお米購入によるご支援をいただきました。日本釣振興会様は、魚類の減少問題（ネオニコチノイド系農薬等の問題）に取り組んでおられ、その一環としてのご支援でした。呼びかけには山室真澄様（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）にご協力をいただきました。

■ クラウドファンディングによるご支援

株式会社つり人社様の支援プロジェクトとして、クラウドファンディングが開始され、2024年度に継続されています。

■ ボランティアによる活動支援

体験農地の整備、保全活動やイベントの実施運営、またホームページやネットショップの改善にあたり、ボランティアの皆様の協力をいただきました。



LUSH Re:Fund Localからの助成金を活用した参加型田んぼの生きもの調査。



エフピコ環境基金助成金を活用したシンポジウム「話し合おうゴミ拾いの意味」。



生きもの元気米は、田んぼ一枚ごとにパッケージが違います。



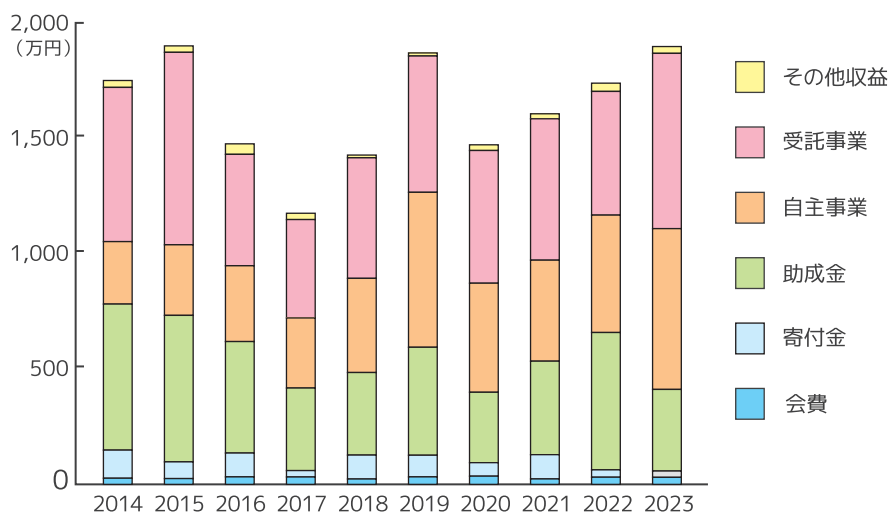
七豊米田んぼの作業。

様々な形でのご支援、ご協力、誠にありがとうございます。

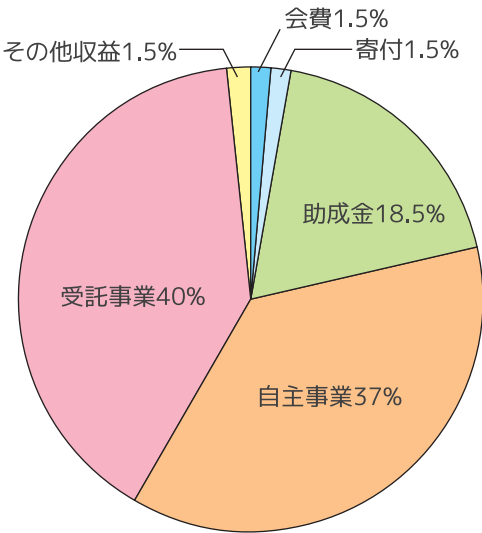
2023年度決算報告

貸借対照表		活動計算書			
2024年3月31日		自 2023年4月1日 至 2024年3月31日			
項目	金額 (円)	科目	特定非営利活動 にかかる事業	その他の事業	合計 (円)
資産の部		【経常収益】			
【流動資産】		受取会費			
現金及び預金	5,043,458	受取寄付金			
売掛金	2,452,614	受取助成金等			
未収補助金	550,000	事業収入			
商品 (元気米在庫)	224,000	受取利息			
短期貸付金	170,000	その他収益			
未収入金	35,757				
流動資産合計		経常収益合計			
資産の部合計	8,475,829				
負債の部		【経常費用】			
【流動負債】		事業費			
未払金	354,877	人件費			
未払費用	301,400	その他の費用			
未払法人税等	71,000	売上原価			
預り金	28,939	租税公課			
前受助成金	923,000	地代家賃			
流動負債合計		諸会費			
負債の部合計	1,679,216	諸謝金			
正味財産の部		リース料			
【正味財産】		印刷製本費			
前期繰越正味財産	5,386,963	荷造運賃			
当期正味財産増減額	1,409,650	外注・委託費			
正味財産の部合計	6,796,613	研究授業費			
		支払手数料			
		通信費			
		会議費			
		保険料			
		広告宣伝費			
		旅費交通費			
		消耗品費			
		その他の費用合計			
		経常費用合計			
		税引前当期正味財産増減額			
		法人税・住民税及び事業税			
		当期正味財産増減額			
		前期繰越正味財産			
		正味財産合計			
負債及び正味財産合計					

経常収益推移(2014～2023年度)



2023年度 経常収益割合





河北潟湖沼研究所の活動は、皆様のご支援で成り立っています。
一緒に活動して下さる方、応援して下さる方を待っています。

会員になる

会員を随時募集しています。入会ご希望の方は下記連絡先までお問い合わせください。

会員種別	年会費	備考
正会員	個人(一般) 12,000円	※機関誌「河北潟総合研究」が年1回、 通信「かほくがた」が年4回届きます。 ※河北潟カレンダーがもらえます。 ※イベントや活動案内が届きます。
	個人(学生) 3,000円	
	団体 24,000円	
サポート会員	2,000円	※イベントや活動案内が届きます。
団体サポート会員	50,000円～	
ボランティア会員	無料	※イベントや活動案内が届きます。

寄付をする

ご寄付で当研究所への活動支援をお願いいたします。用途を指定してのご寄付も可能です。

- 郵便振替 ゆうちょ銀行(振替口座) 00730-1-48345
加入者名 特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所
*通信欄に寄付金とご記入ください。ご住所とお名前を必ずご記入ください。
- 銀行振込 楽天銀行 第一営業支店 普通 093010
口座名義:トクヒ)カホクガタコショウケンキウジョ
- クレジットカード 下記URLより決済ページにおすすみください。
<http://kahokugata.sakura.ne.jp/donation.shtml>



寄付ページ

購入する

ゆうぐれ金曜マルシェのほか、下記ネットショップで生きもの元気米や七豊米、すずめ野菜、河北潟総合研究等をご購入いただけます。

- カホクガタ <https://kahokugata.stores.jp/>
- 河北潟湖沼研究所のお米屋さん <http://kahokugata.cart.fc2.com/>



カホクガタ



お米屋さん

参加する

調査研究、保全活動、体験イベント等へのご参加をお待ちしています。活動情報は研究所ホームページやSNS、メルマガ等でご案内していますので、フォローや登録をお願いいたします。また日常活動へのボランティア参加もお待ちしております。メールや電話等でお気軽にお問い合わせください。



メルマガ登録



Instagram



X(旧Twitter)



facebook

NPO法人河北潟湖沼研究所(かほくがたこしょうけんきゅうじょ)

〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9

電話 076-288-5803 fax 076-255-6941

E-Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp

ホームページ <http://kahokugata.sakura.ne.jp>